

地産地消の輪をつくる

—地域の手で まちを耕し 育む—

対象地の小幡・清住地区は近年人口の減少・高齢化が進み、まちは活力を失っています。居住者の地域外への転出や店舗の閉店で使われなくなった歴史的建造物が取り壊されて、街道沿いの整然とした風景も失われつつあります。かつて宇都宮の交通の要所であった頃のにぎわいは、見る影もありません。

本提案では、若い家族や元気なお年寄りが誇りを持って住み続ける街を目標に、区画整理事業を通して、「選ばれる都市空間」・「住民の組織」そして「地域独自の財源」を整備することを提案します。地域での生活空間や地域の整備を住民自身が行うための組織と財源という地盤を「耕し」、地域が生み出したお金で地域を「育てる」。これが「地産地消の輪」となり、街にはやがて新たな賑わいが生まれていきます。

耕す事業：選ばれる都市空間と地域独自の財源を生み出す「地産」のしくみ

区画整理会社施行による基盤整備

都市再生区画整理事業を区画整理会社が施行することにより道路整備と生活空間の整備を合わせて行います。また、高度利用促進区を設定して地域の軸となる場所への立体換地を誘導し、賑わいの創出につなげます。

まちづくり会社による戦略的住宅供給

保留地の取得や先行買収により取得した土地の借地により、地域の軸となる場所に、若い家族や元気なお年寄り向けの住宅を建設します。低層部には生活利便施設を導入し、街の魅力を高めます。また、当事業の賃料収入により、地域独自の継続した財源を獲得します。

育む事業：豊かな空間を地域の手で守り育てる「地消」のしかけ

住民による都市空間整備

まちづくり会社の収益を活動資金として、住民によるコミュニティパークの整備や歴史的建造物の保全活動を行います。

景観協定の運用

まちづくり会社を中心となって、専門家である景観アドバイザーを交えながら地域住民と事業者がデザインを協議する場を設け、景観協定を運用します。

地産地消の輪は、単一の主体がマスタープランを描き実現する直線的な事業ではなく、区画整理会社・まちづくり会社そして地域住民それぞれによる事業が重層的に重なり合い、対話と試行錯誤を重ねながら、漸進的に進んでいくことで、大きく広がりながら街を豊かにしていきます。